

GUIDEBOOK



MUSEUM MEISTER
— HOKKAIDO UNIVERSITY —

www.museum.hokudai.ac.jp



北海道大学総合博物館

ミュージアムマイスター

認定コースのご案内

2016年度



- 01 社会はミュージアムマイスターを待っている!
- 02 ミュージアムマイスター認定コースの概要
- 03 開講科目一覧
- 04 開講科目の紹介
- 06 特集
「マイスターに聞いてみよう!」
- 08 登録申し込みについて

社会は ミュージアム マイスターを 待っている!

皆さんは、大学では専門分野について深く学ぶことが大切だと思っているでしょう。そのこと自体は間違っていないが、北海道大学のような総合大学では、学科や学部の垣根を超えて、広い分野を学ぶことができます。そのような恵まれた環境にいることを、最大限に活用しましょう。総合博物館では「博物館を舞台とした体験型教育」課程を設定し、広い分野の知識を講義や実習で習得するだけでなく、博物館が主宰する課外演習や活動を通じて実践的に学ぶコースを作りました。このコースでは一定水準をクリアした学生は「ミュージアムマイスター」として認定されます。しかし、平成21年度から始まったこのプログラムでは、マイスターはまだ24名しか誕生していません。いかに選りすぐられた人材に与えられる称号であるか、わかると思います。このコースで我々が重視するのは、知識だけではなく、現代社会において必要とされる「社会貢献のための高い見識と情熱」、「人間社会の持続的発展のために貢献できる知恵」を持つ人材の育成なのです。これは、北大の教育理念である「全人教育」の完成形であるといえるでしょう。皆さんもマイスターを目指して、充実した学生生活を過ごしてみませんか。

2016年4月

北海道大学総合博物館長
中川 光弘



ミュージアムマイスター 認定コースの概要

「ミュージアムマイスター認定コース」とは、課題探究能力、協調性と自主性を備え、問題解決能力、コミュニケーション能力、マネジメント能力を持ち、自己評価の視点を身に付けた北大生を認定する教育システムです。シラバスの中から、北大総合博物館が認定した科目を履修し、さらに、博物館が主催するプロジェクトや講座に参加して、必要なクレジット数を取得し、一定基準の成績を修め、プレゼンテーションを含む面談をクリアした学生を、北大総合博物館長が「ミュージアムマイスター」として認定します。

● 受講方法

下記の通り科目種別(A～D)の手続きに従って、受講申請を行ってください。大学院生が学芸員養成課程関連科目以外のABの科目を聴講希望する場合は、まず、ミュージアムマイスター事務局にお問い合わせください。

A 全学教育科目 (総合科目、一般教育演習、主題別科目)

高等教育推進機構・教務課に、指定の期日までに履修届を提出してください。

B 学部専門科目

他学部学生が履修する場合は、担当教員にミュージアムマイスター認定コースの一環として参加する旨をご連絡ください。(履修は所定の申請を行えば認められますが、卒業認定に関わるかは学部によって異なります。マイスターコースのクレジットは取得することができます。)

C 大学院専門科目・大学院共通授業科目

学部学生も3年生以上は履修可能です。その場合は、担当教員にミュージアムマイスター認定コースの一環として参加する希望を伝え、了承を得て、ミュージアムマイスター事務局にご連絡ください。(マイスターコースのクレジットは取得できませんが、学部学生は単位を取得できないため、履修届を提出する必要はありません。)

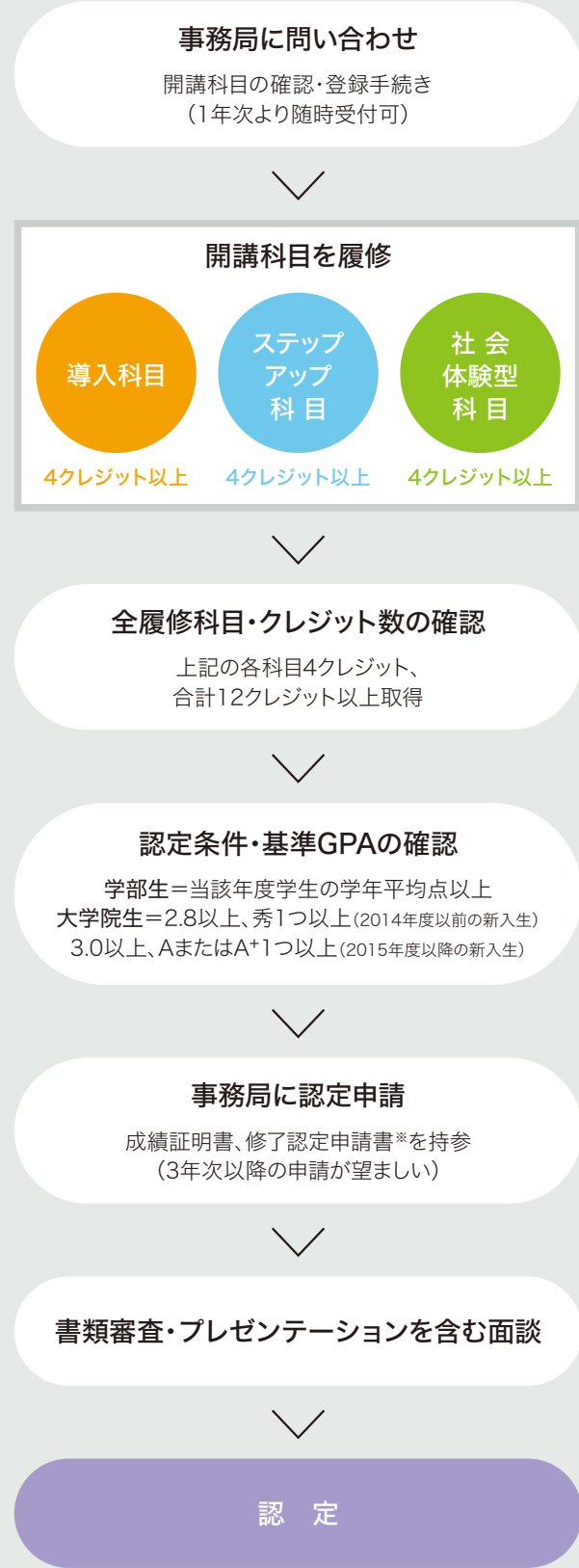
D オフカリキュラム・プログラム

通常の授業枠を超えて博物館が独自に開講するプログラムです。内容は、企画展の展示解説やセミナー運営など様々です。受講生は自分の空き時間を利用してプログラムに参加します。博物館独自のプログラムのため、関連情報はシラバスには掲載されていません。卒業認定に関わる単位は取得できませんが、マイスターコースのクレジットは取得できます。受講生募集は、博物館ウェブサイトや構内ポスターで前期・後期に各1回行います。今後の予定などはミュージアムマイスター事務局までお問い合わせください。

◎ クレジットについて

クレジットはミュージアムマイスター認定コース独自のものです。大学院授業やオフカリキュラムのプロジェクトで認定されるクレジットは、卒業認定に関わる単位とは異なります。また「ミュージアムマイスター認定コース」で必要な科目と「学芸員資格取得」に必要な単位は異なります。

● 認定までの流れ



* 修了認定申請書は「ミュージアムマイスター 修了認定申請書」で検索、もしくはミュージアムマイスター事務局までお越しください。

開講科目一覧

● 下記の科目情報は平成28年3月1日現在のものです。変更になる場合もありますので、開講学期・曜日・時間についてはシラバスも必ず確認してください。

科目種別	授業名	開講時期	曜日(時限)	責任教員	クレジット数
A 全学教育科目(総合科目)	[環境と人間] 生物の多様性	1	水曜(5)	柁原 宏	1
A 全学教育科目(総合科目)	[環境と人間] フィールド科学への招待	1	金曜(5)	四ツ倉 典滋	1
A 全学教育科目(総合科目)	[人間と文化] アイヌ・先住民研究の現在	2	木曜(5)	山崎 幸治	1
A 全学教育科目(総合科目)	[環境と人間] 「モノ」+「コト」+「ヒト」=北大総合博物館	1	木曜(5)	江田 真毅	1
A 全学教育科目(一般教育演習)	北大エコキャンパスの自然と人間: 植物学入門	1	木曜(5)	高橋 英樹	2
A 全学教育科目(一般教育演習)	北大エコキャンパスの自然と歴史	1	金曜(5)	高橋 英樹	2
B 文学部専門科目	博物館概論	1	水曜(1)	佐々木 亨	2
B 文学部専門科目	博物館教育論	1	木曜(1)	湯浅 万紀子	2
B 文学部専門科目	博物館資料論	1	金曜(5)	加藤 克	2
B 文学部専門科目	博物館経営論	2	火曜(5)	佐々木 亨	2
B 文学部専門科目	博物館情報・メディア論	1	水曜(5)	山下 俊介	2
B 文学部専門科目	博物館展示論	2	金曜(5)	山崎 幸治	2
B 文学部専門科目	博物館資料保存論	1	火曜(5)	鈴木 幸人	2
A 全学教育科目(総合科目)	[環境と人間] ヒグマ学入門	2	水曜(5)	増田 隆一	1
A 全学教育科目(一般教育演習)	フィールド体験型プログラム ー人間と環境科学ー[1]	1	集中	荒木 肇	2
A 全学教育科目(一般教育演習)	フィールド体験型プログラム ー人間と環境科学ー[2]	2	集中	荒木 肇	2
A 全学教育科目(一般教育演習)	地域と大学 北大フィールドセンター施設を活用して地域を学ぶ	1	集中	荒木 肇	2
A 全学教育科目(一般教育演習)	遺跡を探そう	1	集中	加藤 博文	2
A 全学教育科目(一般教育演習)	International Archaeological Field School in Rebus Island	1	集中	加藤 博文	2
A 全学教育科目(一般教育演習)	「蛙学」への招待	1	木曜(5)	鈴木 誠	2
A 全学教育科目(主題別科目)	[芸術と文学] 学芸員から見た美術の世界	2	木曜(3)	岩崎 直人	2
A 全学教育科目(主題別科目)	[芸術と文学] PMFの響き	1	木曜(5)	三浦 洋	2
A 全学教育科目(主題別科目)	[芸術と文学] 美術館という現場	1	水曜(2)	北村 清彦	2
A 全学教育科目(主題別科目)	[歴史の視座] ヒトとは何か: 人類学入門(導入編)	秋	月曜(5)	加藤 博文	1
A 全学教育科目(主題別科目)	[歴史の視座] ヒトとは何か: 人類学入門(発展編)	冬	月曜(5)	加藤 博文	1
B 文学部専門科目	北方人類学演習: フィールドワーク実践 [16]	1	火曜(3)	佐々木 亨	2
B 水産学部専門科目	水圏生物学	春	火曜(3~4)	今村 央	2
B 水産学部専門科目	魚類学	春	月曜(1) 水曜(2)	矢部 衛	2
B 水産学部専門科目	魚病学	夏	火曜(1) 金曜(3)	笠井 久会	2
B 水産学部専門科目	水族館学	春	木曜(3~4)	河合 敏郎	2
C 文学研究科専門科目	北方文化論特殊講義: ミュージアムのマネージメント [16]	2	火曜(3)	佐々木 亨	2
C 大学院共通授業科目	博物館学特別講義 I: 学術標準・資料学	Ⅲ-Ⅳ	金曜(5)	高橋 英樹	2
C 理学院専門科目	自然史科学特別講義 IV: 博物館工学 [1]	1	集中	西野 嘉章	1
C 理学院専門科目	自然史科学特別講義 IV: 博物館工学 [2]	1	集中	西野 嘉章	1
D 総合博物館・オフカリキュラム	バラタクソノミスト養成講座	—	随時*	—	0.5~1
C 理学院専門科目	博物館コミュニケーション特論 (学生発案型プロジェクトの企画・実施・評価)	1	木曜(4)	湯浅 万紀子	2
C 大学院共通授業科目	博物館コミュニケーション特論 I 学生発案型プロジェクトの企画・実施・評価	I-II	木曜(4)	湯浅 万紀子	2
C 理学院専門科目	博物館コミュニケーション特論 (博物館における映像表現)	1	集中	藤田 良治	2
C 大学院共通授業科目	博物館コミュニケーション特論 II 映像表現 夏の陣	II	集中	藤田 良治	2
C 理学院専門科目	博物館コミュニケーション特論 (ミュージアムグッズの開発と評価)	2	水曜(4)	湯浅 万紀子	2
C 大学院共通授業科目	博物館コミュニケーション特論 III ミュージアムグッズの開発と評価	Ⅲ-Ⅳ	水曜(4)	湯浅 万紀子	2
C 理学院専門科目	博物館コミュニケーション特論 (映像制作とスノーボード)	2	集中	藤田 良治	2
C 大学院共通授業科目	博物館コミュニケーション特論 IV 映像表現 冬の陣	IV	集中	藤田 良治	2
C 理学院専門科目	理科教育課程マネジメント特論	2	金曜(4)	山田 邦雅	2
C 大学院共通授業科目	理科教育課程マネジメント特論	Ⅲ-Ⅳ	金曜(4)	山田 邦雅	2
C 大学院共通授業科目	南紀熊野の森林から地域を考える ー原材料採取から商品開発までー	II	集中	揚妻 直樹	2
D 総合博物館・オフカリキュラム	学生参加プロジェクト (展示制作、展示解説など)	—	随時*	湯浅 万紀子	1~2
D 総合博物館・オフカリキュラム	卒論ポスター発表会	—	1月中旬~ 3月上旬	湯浅 万紀子	2

* 受講者募集の案内は、北大総合博物館ウェブサイトに掲載されます

開講科目の紹介

導入科目

環境・人間・文化に関する基礎知識を学習する科目や導入的なフィールド体験型科目。博物館の存在意義や活動についての基礎知識を学習する科目。



全学教育科目(総合科目)

- ・[環境と人間] 生物の多様性
- ・[環境と人間] フィールド科学への招待
- ・[人間と文化] アイヌ・先住民研究の現在
- ・[環境と人間] 「モノ」「コト」「ヒト」=北大総合博物館

全学教育科目(一般教育演習)

- ・北大エコキャンパスの自然と人間: 植物学入門
- ・北大エコキャンパスの自然と歴史

文学部専門科目

- ・博物館概論
- ・博物館教育論
- ・博物館資料論
- ・博物館経営論
- ・博物館情報・メディア論
- ・博物館展示論
- ・博物館資料保存論

ステップアップ科目

実物資料の扱い方やフィールドワークの方法を学習する科目や講座。博物館の活動と運営について理解を深める科目。



授業紹介

●水族館学

水族館をめぐる学問分野は非常に広範囲にわたっています。水産学、動物学、水質化学などの自然科学と、博物館学、経営学、教育学などの人文科学を総合的に理解することで、水族館とは何かということを学習します。また、水族館で実際に行っている研究活動や日常の仕事について、水族館の職員になるための過程についても紹介します。

本講義は、実際に水族館で活躍している方々が講義をします。今年度は鴨川シーワールド総支配人の荒井一利氏、大阪海遊館館長の西田清徳氏、沖縄美ら島財団総合研究センター研究第一課長の佐藤圭一氏、おたる水族館魚類飼育課係長の三宅教平氏を予定しています。

水族館職員を目指す学生にとっては、水族館の職員と接する機会ができるまたとないチャンスです。



●パラタクソノミスト養成講座

パラタクソノミストとは「準分類学者」と訳し、学術標本・サンプルを正しく同定し整理する能力を有する者を意味します。本講座は、標本の作り方・ハンドリングの仕方・管理方法・研究方法等々を学び、生物学、地球科学、考古学分野等の専門家をサポートする人材の養成を目的とした、市民も受講できる講座です。大学生・大学院生の教養教育として、博物館ボランティアのスキルアップとして、学芸員・教員・自然観察指導員等のリカレント教育として現在利用されてきています。講座は初級から始まり、その後分野によっては中級・上級が開講され、より専門的な内容を学ぶことができます。これまでに、昆虫、岩石、鉱床、化石、木製品、魚類、土器、石器、哺乳類、海藻といった分野が開講されました。

講座の開催は不定期ですので、北大総合博物館ウェブサイトでご確認ください。



全学教育科目(総合科目)

- ・[環境と人間] ヒゲマ学入門

全学教育科目(一般教育演習)

- ・フィールド体験型プログラム—人間と環境科学—[1]
- ・フィールド体験型プログラム—人間と環境科学—[2]
- ・地域と大学
北大フィールドセンター施設を活用して地域を学ぶ
- ・遺跡を探そう
- ・International Archaeological Field School in Rebun Island
- ・「蛙学」への招待

全学教育科目(主題別科目)

- ・[芸術と文学] 学芸員から見た美術の世界
- ・[芸術と文学] PMFの響き
- ・[芸術と文学] 美術館という現場
- ・[歴史の視座] ヒトとは何か: 人類学入門(導入編)
- ・[歴史の視座] ヒトとは何か: 人類学入門(発展編)

文学部専門科目

- ・北方人類学演習: フィールドワーク実践 [16]

水産学部専門科目

- ・水圏生物学 ・魚類学 ・魚病学 ・水族館学

文学研究科専門科目

- ・北方文化論特殊講義: ミュージアムのマネージメント [16]

大学院共通授業科目

- ・博物館学特別講義 I: 学術標本・資料学

理学院専門科目

- ・自然史科学特別講義 IV: 博物館工学 [1]
- ・自然史科学特別講義 IV: 博物館工学 [2]

総合博物館・オフカリキュラム

- ・パラタクソノミスト養成講座

社会体験型科目

博物館の展示や場を活用したプロジェクトの企画・運営・評価に参加したり、学生の研究成果を市民に向けて発信して意見交換したりするなど、学生が博物館での活動を通じて社会とつながる実践と評価を行う科目やプロジェクト。



理学院専門科目

- ・博物館コミュニケーション特論 (学生発案型プロジェクトの企画・実施・評価)
- ・博物館コミュニケーション特論 (博物館における映像表現)
- ・博物館コミュニケーション特論 (ミュージアムグッズの開発と評価)
- ・博物館コミュニケーション特論 (映像制作とスノーボード)
- ・理科教育課程マネジメント特論

大学院共通授業科目

- ・南紀熊野の森林から地域を考える —原材料採取から商品開発まで—
- ・博物館コミュニケーション特論 I 学生発案型プロジェクトの企画・実施・評価
- ・博物館コミュニケーション特論 II 映像表現 夏の陣
- ・博物館コミュニケーション特論 III ミュージアムグッズの開発と評価
- ・博物館コミュニケーション特論 IV 映像表現 冬の陣
- ・理科教育課程マネジメント特論

総合博物館・オフカリキュラム

- ・学生参加プロジェクト (展示制作、展示解説など)
- ・卒論ポスター発表会

授業紹介

●卒論ポスター発表会

北海道大学を卒業するさまざまな学部(学)の学生が、4年間の研究の成果について大きな1枚のポスターにまとめて発表します。学会での発表とは異なり、市民や他分野の学生にも理解できるようなポスターを制作し、わかりやすく説明することが求められます。事前に中間発表会を行い、教員の指導を受け、発表会に臨みます。



参加者の声

◎研究を発表する機会が欲しかったこと、市民への発表ができる数少ない機会だったので参加しました。異なる分野の方々や市民の方々とのお話からは新たな視点や知識が得られ、アドバイスもいただけて、楽しい時間となりました。

◎卒業論文をわかりやすく簡潔にまとめることの難しさや、研究の足りない部分や新たな疑問点など、様々なことに気づかされました。また、他の発表者の研究や発表に打ち込む姿に触れることができ、大変刺激になりました。

◎専門用語やその分野の考え方など、学んでいる者にとっての常識を見直す良い機会になりました。市民の方々に馴染みのない研究内容を伝えられるかどうかポスター作りに苦労しましたが、研究に触れていただくことができましたのはよかったです。

◎研究の要点や成果をいかに簡潔に伝えられるかを心掛けてポスターはうまく工夫することができましたが、聞き手と最初にコミュニケーションをしっかりと、その人の興味や背景に応じて、話す内容をもっと柔軟に変更できればよかったです。

●学生参加プロジェクト

市民に向けた大学博物館関連プロジェクトの企画・制作・運営・評価などに参加します。学生だけではなく、博物館教職員やボランティアと協働することで、コミュニケーション能力やマネジメント能力を養うことを目的としています。授業や普段の学生生活では味わうことのできない、貴重な社会体験の場です。

過去のプロジェクト: 土曜市民セミナーの運営/卒論ポスター発表会の運営 他多数



参加者の声

土曜市民セミナーの運営

◎学芸員を志望していることもあり、入学後すぐにミュージアムマイスター認定コースに登録し、土曜市民セミナーの運営に参加することを決めました。広報ポスターの制作や司会進行を通じて「人に伝える」ことの大切さや難しさを学べたこと、博物館の仕事の一端を担えたことは、とても貴重な経験となりました。今回学んだことをこれからも磨いていきたいです。

卒論ポスター発表会の運営

◎他のメンバーと何度も打ち合わせを行い、広報ポスターの制作や司会進行の準備を進めました。経験がないせいか魅力的なポスター制作は特に苦労し、伝えることの難しさを感じましたが、やりがいのあるものでした。発表会当日も手厚いサポートを受けて無事に終えることができ、有意義な経験をする事ができたことをとても嬉しく思います。

message

現在の活動状況と、現時点で考えるマイスターコースの意味

私は国土地理院という国土交通省の機関で働いています。GPS等を使用した、日本の地殻変動の解析や測量技術の整備が仕事です。その一環で、海外の人に日本の測量技術を紹介する機会が多いです。実は、世界には国内の正確な地図が整備されていない国があり、日本も多くの国に地図を作る技術を教えています。一方で、地殻変動は地震や噴火といった自然災害と関係することから、政治家から小学生まで、様々な人に説明を求められることもあります。専門的な情報を「正確さ」と「分かりやすさ」を両立させて説明することの難しさを感じる毎日です。また、好きなものを通じて人と接する喜びが忘れられず、今も休日は国立科学博物館の植物園で案内のボランティアをしています。マイスターコースでは、説明する技術を育むことができたことが私の宝物です。また、文理問わず様々な知識を学んだこと、人前で話す経験を積んだことは、就職活動や今の生活でも役に立っています。

博物館での活動の思い出

休日や夏休みは、想像以上に多くの方が北大総合博物館を訪れていました。博物館には貴重な資料や、面白い物語が背景にある資料がたくさんありますが、一目でそれと分かるものは多くありません。展示解説では、自分が説明することでその大切さや面白さを共有することがとても楽しかったです。卒論ポスター発表会でも、自分が面白いと思いついたエゾシカの研究を、他の人と共有でき、素敵な時間を過ごせました。鈴木章名誉教授がノーベル賞を受賞された際、講演会の司会を任された時には驚きましたが、人前で話す度胸を身につけることができました。

在校生へのメッセージ

総合博物館には、北大の長い歴史の中で受け継がれている物語が展示されているおかげで、周囲よりゆっくりとした時間が流れている、と学生の頃は感じていました。もし、ぽっかりと空いた時間があれば、ぜひ博物館を訪れて下さい。興味が湧いたら、総合博物館の先生の講義やマイスターコースの様々な活動に参加してみると、より深くその物語を知り、皆さんの可能性を広げることができると思います。自分の興味のあることを、分野外の人に伝える経験は貴重だと思います。その場所が博物館であればと願っています。



村松 弘規

国土交通省国土地理院
農学部4年次にマイスター認定



山内 彩加林

水産学部増殖生命科学科4年
水産学部2年次にマイスター認定

message

博物館での活動の思い出

私が博物館で初めて行った活動は卒論ポスター発表会の運営でした。ポスターやリーフレットの制作、表彰式の司会等、全てが初めての経験ばかりで、楽しい中、毎日があっという間に過ぎていった記憶があります。次年度の展示解説では、解説を通して様々な年代の方と関わり、色々な考え方に触れることができました。解説に入る時はいつも先生方に優しい言葉をかけていただき、安心して解説に取り組みました。マイスター認定後の最初の活動は、鈴木章名誉教授と小学生が交流するイベント・サイエンスパークの司会進行で、卒論ポスター発表会で司会を経験していたことが支えになったのを覚えています。鈴木章先生と子ども達を繋ぐ役割を果たせ、ここでしか得られないとても充実した時間を過ごせました。

現在の活動状況と、現時点で考えるマイスターコースの意味

現在は、北大元気プロジェクト(北大を元気にする学生企画を大学が採択して支援する取り組み)の活動にも参加しており、専門的な内容を市民の方々に分かりやすく伝える展示の制作をしています。展示制作は15名程度のグループで行い、話し合いを重ねながらより良いものの完成を目指しています。マイスターコースで建設的な話し合いをしつつポスター制作や発表会の運営に取り組んだ経験が役に立っています。マイスターコースの意味については、自分の可能性を広げてくれるものだ実感しています。北大元気プロジェクトの活動に加わることになったのは、マイスターコースを経験していたことがきっかけでした。活動に当たっては仲間との協力や支えの中、一からの展示制作を経験し、これまでの自分から一歩成長した、ちょっと前の自分では考えられなかったことができるようになったと思っています。

在校生へのメッセージ

マイスターコースで学んだことは、学問的な面だけでなく、他にも様々な場面で力や支えとなるように思います。それだけではなく、この経験によって、自分を成長させてくれる新たな機会を得られることもあると思います。私がマイスターコースを知ったのもこのリーフレットでした。本コースとの出会いのおかげで、ここにしかない沢山の経験や人との繋がりを得られました。本コースは、展示制作をしたい、幅広い世代の方と関わりたい、新しいことに取り組んでみたい等々、きっと皆さんの様々な希望に応えた、充実した時間を与えてくれることと思います。



登録申し込み について

北大総合博物館のウェブサイト
(<http://www.museum.hokudai.ac.jp/education/index.html>)
からダウンロードし、以下の記入例を参考にして、
必要事項を記入してください。

※注意事項

黒のボールペン、またはサインペンではっきりと記入してください。
書き間違い、記入漏れ等がないか、もう一度しっかりと見直してください。

科目名の左側の欄に、該当する
マークを記入してください。
該当する科目がない場合には、
未記入でも構いません。

既に履修した科目=○
現在履修している科目=○

メールアドレスには、なるべく
PCメールのアドレスを記入して
ください。メールアドレスは、ハイ
フン、アンダーバー、ドット等を
はっきりと記入してください。



ミュージアムマイスター認定コース 登録申込書

ミュージアムマイスター事務局 行 整理番号 _____

私は、ミュージアムマイスター認定コースに下記の通り登録を申し込みます。

フリガナ ホク ダイ タ ロウ 申し込み年月日 平成 28 年 4 月 20 日

氏名 **北大 太郎** 生年月日 昭和・平成 6 年 12 月 1 日

〒060-0810 フリガナ サツボロシ キタク 性別 男・女

札幌市北区 学部・学年 文学部 1 年

連絡先住所 キタ 10 ジョウ ニシ 8 チョウメ ホッカイドウダイガク 学生番号 00000000

北 10 条西 8 丁目 北海道大学 電話番号 011-706-4704

Eメールアドレス **taro@museum.hokudai.ac.jp**

履修科目について リーフレットを参考に履修科目の左側の欄に、該当するマークを記入してください。
既に履修した科目=○ 現在履修している科目=○

導入科目	ステップアップ科目	社会体験型科目
<input type="checkbox"/> [環境と人間] 生物の多様性	<input checked="" type="checkbox"/> [環境と人間] ヒグマ学入門	<input type="checkbox"/> 博物館コミュニケーション特論 I 学生発案型プロジェクトの企画・実施・評価
<input type="checkbox"/> [環境と人間] フィールド科学への招待	<input type="checkbox"/> フィールド体験型プログラム-人間と環境科学- [1]	<input type="checkbox"/> 博物館コミュニケーション特論 II (学生発案型プロジェクトの企画・実施・評価)
<input type="checkbox"/> [人間と文化] アイス-先住民研究の現在	<input type="checkbox"/> フィールド体験型プログラム-人間と環境科学- [2]	<input type="checkbox"/> 博物館コミュニケーション特論 III (博物館における映像表現)
<input type="checkbox"/> [環境と人間] 「モノ」+「コト」+「ヒト」=北大総合博物館	<input type="checkbox"/> 地域と大学 北大フィールドセンター施設を活用して 地域を学ぶ	<input type="checkbox"/> 博物館コミュニケーション特論 IV (映像表現 夏の陣)
<input type="checkbox"/> 北大エコキャンパスの自然と人間: 植物学入門	<input type="checkbox"/> 遺跡を探そう	<input type="checkbox"/> 博物館コミュニケーション特論 V (博物館における映像表現)
<input type="checkbox"/> 北大エコキャンパスの自然と歴史	<input type="checkbox"/> International Archaeological Field School in Rebun Island	<input type="checkbox"/> 博物館コミュニケーション特論 VI (ミュージアムグッズの開発と評価)
<input type="checkbox"/> 博物館概論	<input type="checkbox"/> 「蛙学」への招待	<input type="checkbox"/> 博物館コミュニケーション特論 VII (ミュージアムグッズの開発と評価)
<input type="checkbox"/> 博物館教育論	<input type="checkbox"/> [芸術と文学] 学芸員から見た美術の世界	<input type="checkbox"/> 博物館コミュニケーション特論 VIII (ミュージアムグッズの開発と評価)
<input type="checkbox"/> 博物館資料論	<input checked="" type="checkbox"/> [芸術と文学] PMFの書き	<input type="checkbox"/> 博物館コミュニケーション特論 IX (映像表現 冬の陣)
<input type="checkbox"/> 博物館経営論	<input type="checkbox"/> [芸術と文学] 美術館という現場	<input type="checkbox"/> 博物館コミュニケーション特論 X (映像制作とスノーボード)
<input type="checkbox"/> 博物館情報・メディア論	<input type="checkbox"/> [歴史の視座] ヒトとは何か: 人類学入門(導入編)	<input type="checkbox"/> 博物館コミュニケーション特論 XI (映像制作とスノーボード)
<input type="checkbox"/> 博物館展示論	<input type="checkbox"/> [歴史の視座] ヒトとは何か: 人類学入門(発展編)	<input type="checkbox"/> 理科教育課程マネジメント特論
<input checked="" type="checkbox"/> 博物館資料保存論	<input type="checkbox"/> 北方人類学演習: フィールドワーク実践 [16]	<input type="checkbox"/> 南紀熊野の森林から地域を考える -原材料採取から商品開発まで-
	<input type="checkbox"/> 水圏生物学	<input type="checkbox"/> 学生参加プロジェクト ()
	<input type="checkbox"/> 魚類学	<input type="checkbox"/> 卒論ポスター発表会
	<input type="checkbox"/> 鳥類学	
	<input type="checkbox"/> 水圏学	
	<input type="checkbox"/> 北方文化論特別講義: ミュージアムのマネジメント [16]	
	<input type="checkbox"/> 博物館学特別講義 I: 学術標本-資料学	
	<input type="checkbox"/> 自然史科学特別講義 IV: 博物館工学 [1]	
	<input type="checkbox"/> 自然史科学特別講義 V: 博物館工学 [2]	
	<input type="checkbox"/> パラタクソミスト養成講座	

システム管理者記入欄 承認年月日 平成 年 月 日 登録番号 _____



北海道大学総合博物館
ミュージアムマイスター事務局

〒060-0810 札幌市北区北10条西8丁目
北海道大学総合博物館2階 研究支援推進員室
TEL & FAX: 011-706-4704 内線(4704)
開室日時: 火~金 10:00~16:00

必要事項を記入した登録申込書を持参のうえ、
ミュージアムマイスター事務局に提出し、登録手続きを行ってください。